


## (6) 嬉野市の学校評価の具体的方策

嬉野市教育委員会では、「嬉野市の学校評価の基本方針」の5点について、具体的方策(例)を次のようにとらえています。そして、各学校ではそれぞれの実態に応じて様々な方策を進めています。

	具体的方策(例)
① 学 校 関 係 者 評 価	<p><b>【主旨の理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価を補完する意味合いでの<u>学校関係者評価</u>について説明を行い、学校評価の目的の確認と参画意識の高揚を図る。</li> </ul> <p><b>【学校に取り込む事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の校内研修会に学校関係者評価委員が参加して協議を行う。</li> <li>・職員会議では生徒指導の協議で、一緒に説明した。今後は、学力の結果についても一緒に協議するなど、学校課題の共有化を図る。</li> </ul> <p><b>【事前配布】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に<u>評価項目</u>を配布し、日頃から評価の観点で学校を見て頂く。</li> <li>・<u>学校自己評価(保護者アンケート含む)</u>結果の分かりやすい提示の工夫(成果と課題)を行う。</li> <li>・事資料配布して、一読してきて頂き、協議を深める。</li> </ul> <p><b>【臨場評価・接続校教員の相互参観】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>観察用アンケート</u>について、1日参観によって学校生活を全てみて頂く。</li> </ul> <p><b>【評価項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目・評価基準の設定は、評価結果の大きな鍵を握る。見えやすい項目と見えにくい項目がある。分かりやすい項目に見直す。</li> </ul> <p><b>【検証】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>年2回実施(第2・3回委員会)</u>学校関係者評価・学校改善の変容を見る。</li> </ul> <p><b>【学校関係者評価委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員、P役員、接続小中学校、地域住民など<u>幅広く委員</u>を求める。</li> </ul> <p><b>【全職員参加による協議】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者とともに全職員が入ることによって、職員の参画意識が高まる。共通理解のもとに一枚岩になった学校改善につながる。</li> </ul> <p><b>【学校評価検討委員会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長・教頭・教務・研究主任・道徳主任(委員の例)</li> <li>・全職員を校務分掌についてプロジェクトに振り分ける。</li> </ul> 
② 情 報	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標、校長のビジョン・計画の浸透、学校課題の周知を行い、学校理解を進める。</li> </ul> <p><b>【方策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>メール配信</u>：迅速なメール配信 緊急(危機)、行事、頑張りメール</li> <li>・学校便り、HP掲載：定期的な具体的な情報発信 → 学校信頼</li> </ul> <p><b>【工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日曜参観の回数を年1回→年3回(A中学校の参加率：39%→63%)</li> </ul>

<p>提 供 ・ 学 校 改 善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参観者を増やす手立て：1日参観の授業の見所の事前お知らせ</li> <li>・ 教職員の顔写真とプロフィールを紹介する学校便り（先生が身近に）</li> <li>・ 学校活動説明会の実施 年2回（PTA総会、教育の日）</li> </ul> <p>【改善の時間確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月に事前お知らせの後、12月に外部アンケート実施し、分析を行う。</li> <li>・ 1月に学校自己評価(内部)を行い、1月下旬から学校関係者評価開始。</li> <li>・ 1月下旬に再度自己評価を行い、<u>学校改善策</u>を作成する。</li> <li>・ 3月に来年度から取り組むことは、来年度の学校教育目標、教育計画、各校務分掌等に盛り込む。</li> </ul>
<p>③ 参 画 意 識</p>	<p>【年間計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>学校評価計画表</u>、<u>学校評価総括表</u>の策定</li> <li>・ 日頃から参画意識を高めるために、職員室の机の上に学校経営ビジョン、学校評価年間プログラムをラミネートして置く。</li> </ul> <p>【校務分掌連動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>校務分掌担当者による目標設定、実践、検証、改善、次期目標設定</u>のPDCAサイクルの日常化（参画意識）を図る。</li> <li>・ 各担当が分掌の評価を行い、その結果と改善策を全職員で協議する。</li> </ul> <p>【進捗状況報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員会議の時に、毎回、教頭が学校評価の話題をあげて意識付けする。</li> <li>・ 各担当の先生が進捗状況を説明する（ボトムアップ）時間を確保する。動機付け、参画意識につながる。</li> </ul>
<p>④ 地 域 連 携</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域も巻き込み、学校評価が、保護者や地域から信頼を得るものにしていく。地域に働きかけ、地域と一体となった学校教育をめざす。</li> </ul> <p>【具体的活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み聞かせボランティアや大工さんに補修にきて頂くだけでなく、ゴミ拾い、草刈り、一人暮らしのお年寄りの話し相手、幼稚園・保育園の読み聞かせボランティア、老人保養施設等に出ていく。</li> <li>・ 地域から学校にきていただくための企画、工夫を進める。</li> </ul>
<p>⑤ 小 中 連 携</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9年間を見据えた教育目標、めざす子ども像にしたがって、小中連携を進め、その9年間を見通した学校評価による学校改善を図る。</li> </ul> <p>【具体的事例】 授業参観、研究授業、学校行事の合同開催（体育大会、弁論大会、合唱コンクール等）の相互交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校9年間を見通した教育目標、共通評価項目の設定</li> <li>・ 教師側から、<u>子供達の9年間を通した成長</u>が見られる。</li> <li>・ 進学説明会も中学生の生徒が小学校6年生に説明する。</li> <li>・ 中1ギャップの解消となる手立てを進める。</li> </ul> 